

職員による自己評価

A環境面

・各児童のニーズを考慮した環境を整えることに尽力し、それぞれが活動に積極的に参加できるよう支援した
・感染症対策として、消毒、除菌、そして適切な換気を徹底実施

B児童への支援内容

・環境に敏感な児童に対して、個々の特性を重視しながらも、集団活動への適応を促すサポートを行った

C関係機関との連携

・個人情報保護を重視し、高いプライバシー要求の事案では担当者を指定して情報管理を行った

D保護者への説明責任・信頼関係

・迅速かつ丁寧な対応を心掛け、保護者からのアンケートにおいても高い評価を得られた

E非常対応

・感染症予防策について、柔軟で適切な対応が実施できた。

保護者による評価

A環境面

・完全なバリアフリーではありませんが、現状の設備でも問題ありません。

B児童への支援内容

・子どもが通うことを心待ちにしており、帰宅後は満足してとても落ち着いています。
・集団での遊びにも積極的に参加するようになり、楽しみながら社会性を育てているようです。

C事業所からの情報発信

・連絡は電話やメールを通じて個別に行われており、親身に対応していただいています。
・情報の共有には少し時間がかかることがありますが、よりスムーズな情報伝達を目指していただければと思います。
・定期的な活動報告があれば、より一層安心です。

D非常対応

・感染症が流行したり、家族が体調を崩した際には、事業所の方々が親切に相談に乗ってくれ、安心して利用できるよう配慮していただきました。

事業所内での分析

【共通点】

- ・**児童のニーズへの対応** - 職員評価では各児童のニーズに合わせた環境設定が、保護者評価でも子どもたちが活動を楽しんでいることが記載されている。
- ・**感染症対策の実施** - 両評価ともに、感染症予防と対応に取り組んでいる点が挙げられています。

【相違点】

- ・**情報共有のスムーズさ** - 職員は関係機関との連携について言及していますが、保護者はスタッフ間の情報共有にタイムラグがあると感じている。

